

しのばず自然観察会より 2024-9 2024.09.02

2024年8月の活動 不忍池 定点観察 9月15日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり(野外ステージ西側、湯島
天神下交差点寄り)

今回は雨天中止

持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食)

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚
参加費不要 非会員の参加も歓迎

10月の不忍池定点観察は、13日(日)の予定です。

不忍池定点観察 2024年8月11日(日)より

7月から真夏日が続出している今夏、この日も37°Cの予報でしたが、東京はこれより多少低めの35.9°C。暑さで参加者減が心配でしたが、初参加の1名を含めて5名が参加しました。上野夏祭りの屋台や風鈴並木は明12日まででしたが、お盆直前のためか暑さのためか、道路も園路も交通量(人出)が少な目でした。先月の活動日には姿を見かけなかった池畔の常連さんたちも復帰していました。

蓮の花はまだ残っていましたが、咲き終わった花托が目立ちました。水上音楽堂あたりで、クマゼミが鳴きました。



咲き残る蓮華

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

2023年以前の会費未納の方もお忘れなく!退会の場合は早めに葉書で事務局へ



花托（蜂巣）が目立つ蓮池のハス群落

確認した鳥:カルガモ、カワウ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、ムクドリ、ドバト、スズメ
その他の動物:コイ、モツゴ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、コフキトンボ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ、ヤマトシジミ(蝶)、ナミアゲハ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、クマゼミ、アカミミガメ
開花・結実:ハス、ウラジロチチコグサ、カタバミ、キョウチクトウ(薄桃色花・紅色花)、サルスベリ(白花・紅花)、カヤ、ジュズ、エノコログサ、シマスズメノヒエ、ノゲシ、タチアオイ、ツククサ、カンナ、メヒシバ、オヒシバ、ヤブガラシ、ソバ?(小川潔、小川千恵子)

今年度の不忍池の蓮刈りについて

8月27日に東部公園緑地事務所より電話があり、今年度の不忍池(蓮池)の蓮刈りを、例年より早めて年内に始めたいとのことでした。例年、1月末から始めて、3月年度末までかかるので、事務管理上、時期をずらしたいということもあるようです。こちらからは、ここ数年、カイツブリが春先に子連れて現れるので、蓮刈りを早めに済ませてもらう方が良いかも知れないこと、以前のように蓮池に渡りのカモが集まることなくなったので、蓮刈りの時期を早めることに特に異論はないと返事をしました。

しのばず自然観察会50年史 進捗状況

谷中の出版社に大まかな見積もりを頼んだところ、B5判より、少し小型のA5判の方が安くできそうで、約250ページ(うち動植物と文化遺産ガイドのページをカラー印刷)で、予算想定内に収まる見込みです。別刷りの動植物・文化遺産アーカイブ写真集は予算オーバーになるので、今回は見送りになりそうです。

原稿がほぼそろってきたので、これからレイアウト、装丁、編集作業が本格化します。涼しくな

ったらご相談したいので、お手伝いいただける方は9月の活動日を目途に声を掛けてください。しのぼず自然観察会創立50周年に当たる2025年9月15日が出版日の目標です。残りあと1年、編集、校正、運搬・発送等、皆さまの力をお貸しください。(小川潔)

台東区による上野公園に関する2つの「規制緩和」について

台東区は令和6年9月4日(水曜日)から15日(日曜日)までの予定で上野公園でグリーンスローモビリティの実証実験を予定するといっています。経路は1.鶯谷駅上⇒2.寛永寺⇒3.東京国立博物館西⇒4.東京国立博物館正門前⇒5.上野駅公園口(公園内)⇒6.竹の台広場⇒7.袴腰広場⇒8.竹の台広場です。このうち、5~8の区間が車道ではない上野公園の中へ乗り入れることとなります。台東区では、「国内外から多くの観光客が訪れる観光地であることや少子高齢化が進んでいることから、交通に関する多様なニーズが求められています。このため、区民や来街者の交通利便性の向上に向けグリーンスローモビリティ等の導入など新たな交通手段の検討を行うことを目的とし、上野エリアにおいてグリーンスローモビリティの実証実験を行います。」(台東区ホームページ)と謳っています。

しかし、グリーンスローモビリティという何やら耳当たりは良いようですが、要は小型乗り合いバス！上野公園では行政の長い努力で自動車の乗り入れを禁止にして、安心して歩ける公園を実現してきました。多くの観光客が訪れる、高齢化、といった言葉とは摩擦が起きかねないモビリティを、あえて上野公園で走らせるのは、将来の車両乗り入れに道を開く目論見が垣間見えます。

同じく9月6日(金曜日)6時~7日(土曜日)22時まで(連続40時間)、芸大前から東博前の都道を車両通行止めにして、まちづくりイベントを行うとしています。ところが、この交通規制のために、代替・迂回路として東博北側(東博と寛永寺霊園御霊屋の間)に車を誘導する計画です。台東区のホームページでは、「公園北部エリアには、歴史、文化・芸術、自然といった特色ある資源が豊富に存在しています。こうした地域資源を最大限活用しながら、エリア内外の回遊を促進することにより、新たな賑わいや交流の創出を図り、当エリアを含めた上野地区全体の魅力・価値の更なる向上につなげていきます。」と謳っています。

このエリアは、コロナ禍まで、しのぼず自然観察会が行なってきた「上野公園自然と歴史的環境めぐり」のコースであり、自然性、歴史性に富んだ地区です。ここへ車を誘導するなんて、おかしくありませんか。このエリアは歩いてこそ価値がある場所です。そこをつぶして「エリア内外の回遊を促進する」とは、どういうことでしょうか。「公園北部エリアには、歴史、文化・芸術、自然といった特色ある資源が豊富に存在しています。」という認識は枕詞に過ぎないようです。

いずれの試みについても、台東区の様式に従って質問を送りましたが、8月末現在、返答はありません。

2024年8月11日の観察会から 小川千恵子

9:22

ハンノキの下、ヤブガラシに蕾有り。少しピンクの花色ものぞく。

オヒシバ、メヒシバが多い。

虫の鳴き声。何？

浮き橋北の水面をアゲハが飛ぶ。シオカラトンボ2匹、何とかバチ1匹。ジュズダマは実が付き、たわわ。一部の実は白い。

ひっくり返したボートの上にカメ1匹。ボートの向こう側(南)に、首がほっそりしたカルガモ2羽が東へ泳ぐ。動物園の方から、ジージーとセミの声。

浮き橋の上のベンチに、上半身裸で半ズボンの初老の男性。南に身体を向けて体操をし、ベンチの背に身体を預けて脚までまっすぐ伸びて、お腹の天日干し。中々見られない光景。

浮き橋北の陸地には、多数の実がついたジュズダマの株がいくつもあり、間にはイネ科の植物の細長い葉が茂る。

戻ると、浮き橋の一番広い所に千切った食パンが一面に散らかっている。ドバトは2羽、手すりに止まっているだけ。

ハンノキの下、とうもろこしの茎と葉に似た植物に、小さい粒々がついた穂が立つ、何？青いツユクサも見られる。桜の下にドバト6羽が座りこむ。ススキ？アカマンマの巨大版、何？エノコログサ、メヒシバ。

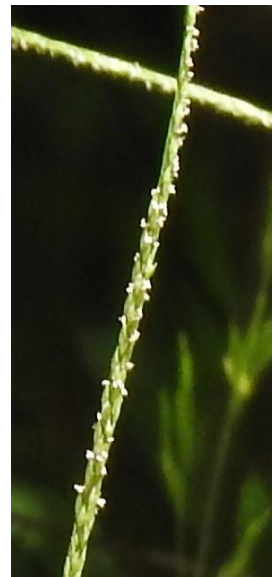
赤っぽい尾のトンボが飛ぶ。甲虫が金色に光りながら葉に止まるが、そのまま(滑って?)下に落ちてしまって草の中へ。シマスズメノヒエ。ユウゲショウ、ヤマトシジミ2頭。ヘラオオバコ、メヒシバ。

白いソバの花は茎が20~30cmに伸びている。10本以上が散らばって咲いている。

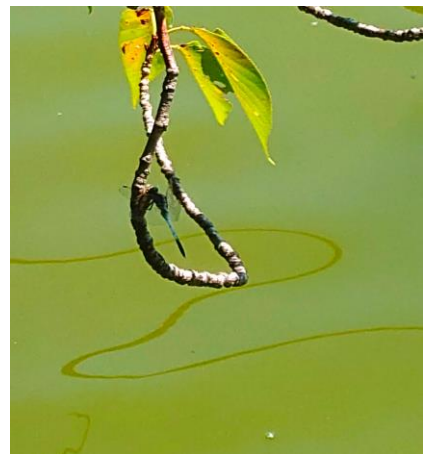
アキニレの下はヘラオオバコとエノコログサ。

ガンジンの南からトリモニュメント手前に、シロツメクサ。花が多い。トリモニュメント南の桜カンザンの下を2頭のシジミチョウが飛ぶ。手すり下には例の謎の丸い葉が広がる コシアキトンボがとぶ。

シオカラトンボが身体の太い部分より大きい何かを



メヒシバの花穂



獲物を捕らえたシオカラトンボ

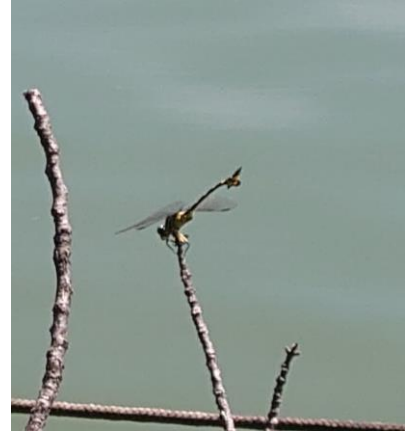
つかんで飛んできて、池につき出た桜の枝にとまる。双眼鏡で見ると、枝につかまって、こげ茶色の蛾を食べている。

同じ桜のもっと池に伸びた枝先にウチワヤンマがとまって、尻を南に高く上げている。

テラスベンチ南で、ミンミンゼミの声。

タチアオイは、枝先と途中に1~2輪花が付き、あとは実になった。実は茶色になっているものが多い。タチアオイの下の方にヤブガラシが巻きついている。

池の中の鉢にこげ茶色のガマの穂。何かのつなぎトンボが北へ風に流されるように通って行く。



尻尾を上げるウチワヤンマ

南の方のタチアオイは刈られて、丈が30~40cmで大きい葉が多数広がる。次に見られたタチアオイは、全身茶色。ボート池南端の裏返しにされたボートの西には丈が10cm位のエノコログサが多数。

集合地 ハスは丈が伸びて、背伸びをしても池の奥の方までは見られない。花も実も蕾も見られる。

カンナはまた伸びて、花はまだ咲いている。中に赤いタチアオイが咲く。菊の葉はそのまま。

シマスズメノヒエ、イヌムギ?ワルナスビは白い花。青いツユクサ。

シマサルスベリは白い花が少し咲いていて、実が多い。木の幹が高さ1.5mあたりで2つに分かれていて、そこに30~40cm×10~15cmの枯れた茶色の木の皮のような物が折り重なってたまっている。身近に見える2本ともそうになっている。シマサルスベリの幹は白く、なめらかだが、幹の皮がむけたのか?

アメリカセンダングサ。

浮き橋の風鈴は先月のまま。野音から流れている水の音が大きくて、風鈴の音はそばに行くまで聞こえない。浮き橋の入口でカラカラと乾いた音がきこえる。風鈴は2000個!水色の風受け板がかなり無くなっている。東より西の方が多数無くなっている。この風受け板は紙製?プラスチック製?落ちた物は全部ゴミとなって、不忍池に落ちたかと思うと、気分が悪い。不忍池の水や生きものへの影響は誰が責任をとるの?

浮き橋北側の蓮は花が少なくて、実が多い。クマゼミの声。

白と青の囲いの手前(南)のクスノキの下にサルまわし。10:50~と書いてある。小さめのイスに男性とサルが隣り合って座っている。サルは「6歳で人間だと18才」と。サルはとても落ちついていて、おだやかな顔をして座っている。

弁天堂入口手前の新しく植えられたキクモモ(菊桃)は枝も葉も茶色に変色。枯れた?タイロウザクラは緑のまま。下をヤマトシジミ4頭が飛ぶ。

池に水が流れ込んでいる所は蓮の丈が低いのが少しあるだけで水面が広がる。

弁天堂入口。右(北)の萩は葉だけになった。左(南)の濃いピンクのサルスベリは満開。橋の上からは、動物園池の蓮は全面を覆うが見渡せる程度の丈。ハス池方向もアシ原(カエル島)まで見渡せる。

弁天堂参道の小藤は、つる先が伸びて、棚の四方から低くたれ下がる。アゲハチョウが東へ飛ぶ。

弁天堂大藤棚入口のサンゴ樹の北側の大きい方には実が15房、北側の小木には5房。大藤棚も少しつるがたれ下がる。

大藤棚南の池縁にはジュズダマ。アシが陸上に。エノコログサが一面に広がる。

大藤棚下でひと休み。暑い暑い！！ダイサギが飛んで西へ。

先月、雨で確認できなかったが、今日はアシの枝の下の方に、枝に沿って付いている葉が茶色になっていたの、そっとはかしてみると、白い粉が出ていて、ピワコカタカイガラモドキが2匹いた！やはり先月、枝に添って付いている葉が緑の内に中を見してみるべきだった！いつ、入って来たのだろう。今日初参加の方にはお見せした。

弁天堂出口北側の聖天島の小さい鳥居の横に、白い花のサルスベリ。

橋の上、全身真っ白なコフキトンボ。アカミミガメが水に浮かんだ蓮の上に乗っている。5cm位のモツゴが多数。

ボート事務所横、アオサギが東へ飛ぶ。シオカラトンボ。Saさん、シオカラトンボとオオシオカラトンボの説明をして下さるが、今いちわからず。(暑さで頭の中も飽和状態)

ボート池と蓮池の間の道を南下。ボート池の南端のひっくり返したボートのそばの、岸にたれ下がった桜の枝が水に着いている。その枝の途中にコサギがとまっている。

つき当たりの植え込みの中、スズメ達の中に薄茶色の頭の幼いムクドリが1羽混じっている。ムクドリはセミの死がいをつつくが、食べるまではいかない。スズメ達の方を気にしていて、そばに行っても土をつつく。嘴をあけたままヨタヨタ歩く。桜の根をつついてみたり、根と根の間のへこみをつついてみたり。本当はまだ親から餌をもらっている時期なのではないだろうか？スズメに期待しても……身体はムクドリの方が大きい。スズメを保護者と思っている？

道のつきあたりの少し高くなった花壇の縁に座って休む。暑すぎ！疲れた！アブラゼミが飛んで木へ。

余りに暑くて、見た物は頭に残っておらず、メモを見てようやく思い出す。7月は雨でよく見られず、8月は暑さで頭が働かず。9月は??